

**製品名:** AP-2 $\gamma$  ウサギポリクローナル抗体

**カタログ番号:** APRab06980

研究使用のみ

## 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	45kDa

## 抗原情報

遺伝子名	TFAP2C
別名	TFAP2C; Transcription factor AP-2 gamma; AP2-gamma; Activating enhancer-binding protein 2 gamma; Transcription factor ERF-1
遺伝子 ID	7022.0
SwissProt ID	Q92754
免疫原	抗血清はヒト AP2C 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 401-450

## 背景

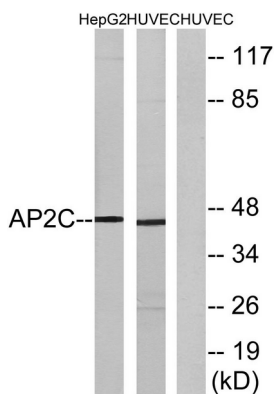
転写因子 AP-2 ガンマ(TFAP2C) ホモサピエンス この遺伝子によってコードされるタンパク質は、いくつかの発生遺伝子の活性化に関

与する配列特異的 DNA 結合転写因子である。コードされるタンパク質は、他のファミリーメンバーとホモ二量体またはヘテロ二量体として作用することができ、レチノイン酸を介した分化の間に誘導される。それは、眼、顔、体壁、四肢、および神経管の発生に役割を果たす。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、ドメイン:WW 結合モチーフは WWOX との相互作用を媒介する。機能誘導性のウイルスおよび細胞エンハンサーエレメントと相互作用して、選択された遺伝子の転写を制御する、配列特異的 DNA 結合タンパク質。AP-2 因子はコンセンサス配列 5'-GCCNNNGGC-3'に結合し、眼、顔、体壁、四肢、神経管の適切な発生を含む、広範囲の重要な生物学的機能に關与する遺伝子を活性化する。また、MCAM/MUC18、C/EBP $\alpha$ 、MYC を含む多くの遺伝子の発現を抑制します。誘導:レチノイン酸を介した分化過程。オンライン情報:アクチバチンタンパク質 2 の発現誘導。PTM: Lys-10 が SUMO 化されており、転写活性を阻害します。類似性: AP-2 ファミリーに属します。サブユニット: DNA に二量体として結合します。他の AP-2 ファミリーメンバーとホモ二量体またはヘテロ二量体を形成できます (類似性による)。WWOX と相互作用します。CITED4 と相互作用します。UBE2I と相互作用します。、

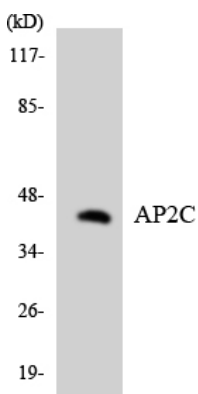
## 研究分野

細胞生物学

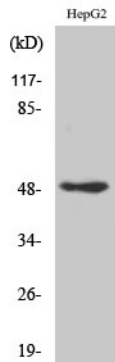
## 画像データ



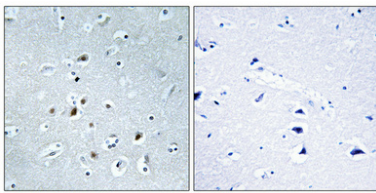
AP2C 抗体を用いた HepG2 細胞および HUVEC 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



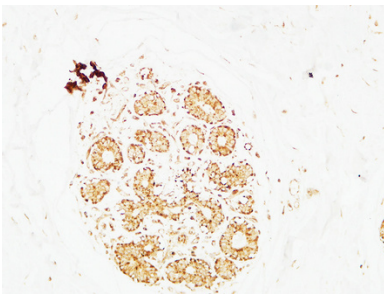
AP2C 抗体を使用した K562 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



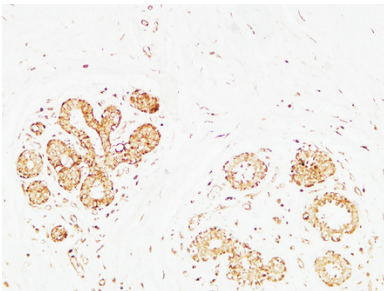
AP-2 $\gamma$  ポリクローナル抗体を用いたさまざまな細胞のウエスタンブロット分析。



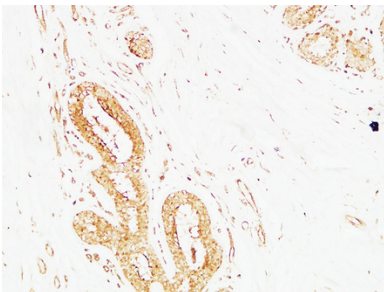
パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。



パラフィン包埋ヒト乳房の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト乳房の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト乳房の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。